

# グローバル人材育成を目指す ICT 教材作成支援

瀬川 忍\*1・森 祥寛\*2・澤田 茂保\*3・John Ertl\*3・Gary Ross\*4  
Email: ssegawa@staff.kanazawa-u.ac.jp

- \*1: 金沢大学 情報部情報化推進室 ICT 教育推進室
- \*2: 金沢大学 総合メディア基盤センター
- \*3: 金沢大学 外国語教育研究センター
- \*4: 金沢大学 医薬保健研究域薬学系

◎Key Words e-Learning／グローバル人材育成／教材作成支援

## 1. はじめに

近年、文部科学省は大学教育のグローバル人材の継続的な育成を推進しており、2014 年度はスーパーグローバル大学創成を支援することを発表している。金沢大学ではアクションプラン 2010 に「グローバルに生きる金沢大学」として「国際通用性のある人材育成」の取り組みを発表し、2012 年度にはこの方針を強化するとしている。そして、2014 年度の方針 (YAMAZAKI プラン 2014) では教育改革の項目に「グローバル化する社会を積極的にリードする人材の育成」が目標に定められている。

市販の e-Learning 教材は多くあるが、金沢大学の教員や学生に最適な教材とはなりにくく、また、教員は自身の授業方法に合う教材の作成意欲はあるが、費用や時間的な制約等により実現しにくい状況にある。ICT 教育推進室 (2014 年 4 月改組、旧 FD・ICT 教育推進室) では教員の要望に応え、ICT 教育の推進を図るべく e-Learning 教材作成の支援を継続的に行っている。特に近年はグローバル人材育成を目指す教材作成を中心に支援している。本稿では、これまで作成した ICT 教材の中から、特にグローバル人材育成を目指した教材作成支援について紹介する。

## 2. ICT 教材作成の支援方法と概要

### 2.1 教材作成支援方法について

学内の教員に対し e-Learning 教材作成の支援について毎年 6 月頃に「授業用 ICT 教材作成支援」として公募し、ICT 教育推進室の実務委員会にて厳正な審査を行い支援する教材を選択している。年度によってテーマが異なり、例えば 2008 年はリメディアル教育教材を多く採択し、2011～2013 年度は「グローバル人材育成」をテーマにした教材を多く採択した。

教材の作成方法は個々の教材によって異なるが、教職員が中心になって作成し、動画作成などを部分的に外注する場合や、教員が教材の仕様書を作成し、教材作成作業の全てを出版会社等へ外注する場合もある。

### 2.2 作成した教材の一覧と概要

グローバル人材育成の教材名と作成年度、作成部署の一覧を表 1 に示す。2010 年度に作成した「英語リーディング教材 (Kanazawa in Photo and Words)」(外国語教

育研究センター) の概要は、日本人学生が外国の方に金沢の都市やその伝統と文化に関することを説明するために、比較的分かりやすい英語で語る教材である。

表 1 作成年度と教材名、作成部署の一覧

2010年度	教材名	英語リーディング教材 (Kanazawa in Photo and Words)
	作成部署	外国語教育研究センター
2011年度	教材名	英語による服薬指導
	作成部署	医薬保健研究域 薬学系
2012年度	教材名	診察・診断のための実用医学・看護 英会話教材 How to interview, Examine, And Listen to your patients (HEALing)
	作成部署	医薬保健研究域 医学系
2012年度	教材名	臨床実習(クリニカル・クラークシップ)のための 実用医学英会話教材 -Do' s and Do' ts-
	作成部署	医薬保健研究域 医学系
2013年度	教材名	英語による服薬指導 II (ステップアップ編) -薬剤師による外国人への服薬指導,コンサルテーション-
	作成部署	医薬保健研究域 薬学系
2013年度	教材名	グローバル人材育成を目指す 共通教育用e-Learning英語教材
	作成部署	外国語教育研究センター
	教材名	Biodiversity, Satoyama and Sustainable Tourism: An Introduction with Cases from Agriculture and Forestry
	作成部署	人間社会学域 人間科学系
	教材名	漢字クラスのためのe-Learning教材
	作成部署	国際機構 留学生センター
2013年度	教材名	初級朝鮮語教材(e-learning用)
	作成部署	共通教育機構

2011 年度、2012 年度に作成した薬学系の「英語による服薬指導」と「英語による服薬指導 II (ステップアップ編)」は、近年増加傾向にある外国人患者への、英語による服薬指導の正確な説明方法を教材化したものである。本教材の構成を図 1 に示す。同じく 2011 年度、2012 年度に作成した医学系の「診察・診断のための実用医学・看護 英会話教材 How to interview, Examine, And Listen to your patients (HEALing)」と「臨床実習(クリニカル・クラークシップ)のための実用医学英会話教材 -Do' s and Do' ts-」は、外国人患者を診察する際の英語での対応方法のビデオを中心にした教材である。2013 年度に ICT 教材作成支援として採択した教材は 6 件であり、テーマとしてグローバル人材育成を目指した教材は 4 件であった。具体的な例としては「グローバル人材育成を目指す共通教育用 e-Learning 英語教材」では、外国語教育研究センター長が監修役を務め、外国語教育研究センターと薬学系の英語教育担当の外国人教員 2 名が中心になり、金沢大学の学生に合う ICT 英語教材を作成した。

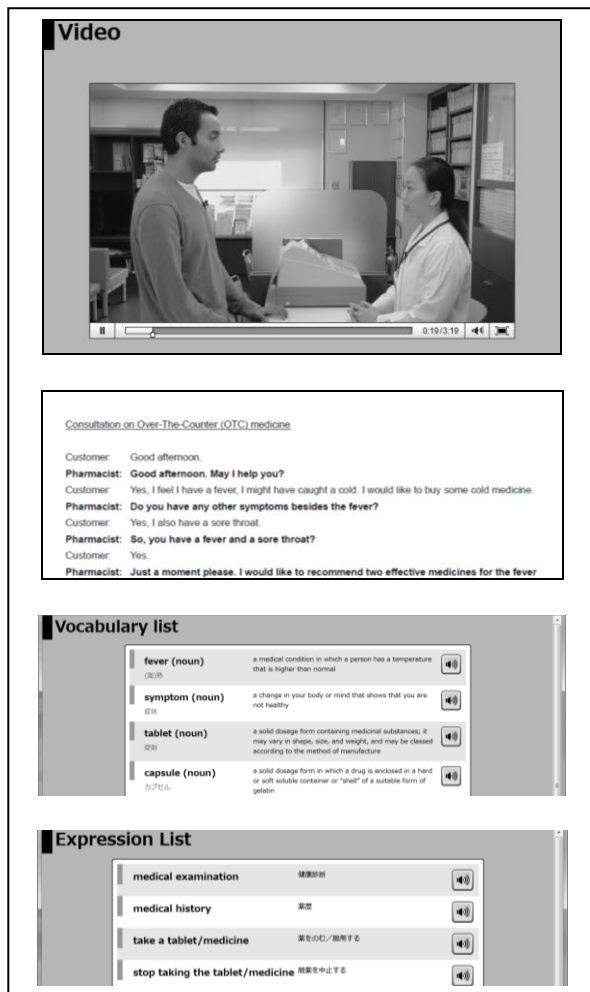


図1 「英語による服薬指導Ⅱ」教材の構成例

教材数は費用の関係から授業 5 回分を作成することになった。教材作成のタイムテーブルを表 2 に示す。打合せは月に 1~2 回実施し、作業の進捗状況を確認した。作業には学生アルバイトを 4 名雇用し、アニメーションは専門のデザイナーに外注した。教材の画面例を図 2 に示す。この教材では、単語をクリックすると連語と同義語の単語リストが上部に表示される仕組みである。単語学習のフラッシュカードもある。教材は 3 月末までに完成し、2014 年度の授業に利用している。主な利用方法は、まず、e-Learning 教材で学習し、次に授業を受け、確認テストを受ける。

表 2 教材作成のタイムテーブル

6月	教材の概要、担当、制作費用などの打ち合わせ
7月	具体的なタイムテーブルと外注仕様書や謝金支払いなどの打ち合わせ
8月	教材作成作業開始、及び、外注の仕様書作成
9月	教材のストーリーボード、テキスト部分の作成開始。アニメーションを外注にて発注。
10月	
11月	教材作成作業
12月	
1月	アニメーション納品。ナレーションなどの追加。
2月	
3月	教材全体の編集、確認作業。外注費、謝金の支払。



図2 「グローバル人材育成を目指す共通教育用 e-Learning 英語教材」の例

### 3. まとめと課題

教員は自身の授業方法に合う教材の作成意欲はあるが、費用や時間的な制約等により実現しにくい状況にある。ICT 教育推進室では 2005 年度から教材作成支援を継続しているが、毎年、公募開始前から問い合わせがあるなど、教材作成支援体制が学内に浸透していることが伺える。近年はグローバル人材育成を目指した仕様の教材作成を中心に支援しており、今後も支援を継続する予定である。

さらに、近年、「反転授業」という教育方法が注目されているが、「反転授業」を実現する方法の一つとして本支援にて作成した e-Learning 教材の活用を期待したい。

#### 参考文献

(1) Garry Ross, John Ertl: “Development of Online English Listening Videos and E-Learning System at Kanazawa University”, Forum of Language Instructor, Vol.8, pp.69-79 (2014).